

平成31・令和元年度は、専門部長として、三養基高校の久保山文典校長先生を新しく迎え、武末良樹(多久)、宮川淳(唐津東)、小川高明(鳥栖工)、野田泰史(三養基)を専門委員、江原一興(鳥栖工)を専門委員長として各大会を実施することになりました。

今年度が開催された大会を、時間を追って紹介します。高体連関係で、6月の県総体では、蛤岳・脊振山・金山山系で予定通りに行われました。7月の九州大会は熊本県の阿蘇山山系の南外輪山で開催され、8月の全国大会は宮崎県の祖母山山系で開催されました。山岳連盟関係では、4月に国体県予選、長崎県開催の九州ブロックスポーツクライミング選手権、7月に佐賀県で国体九州ブロック予選が行われました。10月には茨城県で国民体育大会があり、11月には十坊山・浮嶽・女岳山系での佐賀県登山新人大会、12月には第10回全国高校選抜クライミング選手権が例年通り埼玉県加須市で開催されました。

以下、報告をいたします。

### 平成31年度国民体育大会(茨城大会)佐賀県予選

- ・期 日 4月14日(日)
- ・会 場 多久市  
多久高等学校
- ・参加校 (男子) 佐賀工 多久高  
鳥栖工 星生学園  
(女子) 多久高 佐賀北
- ・参加者 男子21名 女子4名
- ・カテゴリー 高校生男子、女子

今年は、男子は4校21名の参加、女子が2校4名のいつもより少ない人数でのさびしい参加となりました。

男子については、昨年、国体に出場した梶晃悠(多久高3年)くんが一步抜きん出ている、それを2人の選手が追う形の三つ巴の戦いとなりました。梶くんがリード・ボルダリングともに1位を取り、その力をいかに発揮し、リードでは平井寛太(星生学園3年)と中武司(多久高2年)が同高度でともに2位となり、ボルダリングで18本の課題のうち、中武くんが1本多くクリアし、中武くんが2位、平井くんが3位となりました。

女子については、これまでも世界大会に出場経験がある樋口結花(多久高3年)さんは少年女子としては最後の国体に意欲を示し、これまで2年連続で樋口さんのペアを務めた渡島夏希(佐賀北2年)さんと昨年の選抜大会で

樋口さんと団体1位を勝ち取った掛林紗衣(多久高2年)さんの対決に今年も注目されました。ただ女子は、この3名をふくめ4名の参加で、選手層の薄さが今年も気になりました。リードについては、樋口さんの調子が悪かったのか、3名が同じ高度で落ち、同点1位を分け合ったが、ボルダリングで15本の課題をすべてクリアし、その実力を遺憾無く発揮し、堂々の総合1位をとり、総合2位には、ボルダリングで渡島さんが掛林さんを1課題上回り、総合2位を勝ち取りました。男女とも優勝の梶くんと樋口さんは次の九州ブロックの選手として、決まったものの、2位・3位の実力が男女とも拮抗していて、この時点での国体選手の決定は持ち越しとなりました。

### 成績

- 男子 1位 梶 晃悠(多久高3年)  
リード1位(完登) ボルダリング 18/18本
- 2位 中武 司(多久高2年)  
リード2位(19+) ボルダリング 17/18本
- 3位 平井 寛太(星生学園2年)  
リード2位(19+) ボルダリング 16/18本
- 女子 1位 樋口 結花(多久高2年)  
リード1位(24+) ボルダリング 15/15本
- 2位 渡島 夏希(成章中3年)  
リード1位(24+) ボルダリング 14/15本
- 3位 掛林 紗衣(中央中3年)  
リード1位(24+) ボルダリング 13/15本

### 第19回九州ブロックスポーツクライミング選手権

- ・期 日 4月28日(日)
- ・会 場 大村市  
大村高等学校
- ・参加校 (男子) 福岡 佐賀 長崎 熊本  
大分 宮崎 鹿児島  
(女子) 佐賀 長崎  
熊本 大分
- ・参加者 男子45名 女子19名
- ・カテゴリー 高校生男子、女子

毎年、九州各県で持ち回りでの開催で、高校生だけでなく小中学生も参加できる九州では比較的大きな大会で、今年は長崎県で行われました。男子は、沖縄を除く7県から、女子は、福岡・宮崎・鹿児島・沖縄を除く4県か

ら参加し、高校生だけでも男子 45 名、女子 19 名の参加となりました。

佐賀県から男子が 15 名、女子が 4 名参加しました。国体の会場だった大村高校には 2 基のリード壁があり、男女とも予選を 2 本行い、そのうち男女とも上位の 7 名が決勝に進みました。男子については、予選の左壁は、決勝に残った 7 人全てが完登し、右壁を完登した梶晃悠(多久高 3 年)くんが福岡・熊本の選手とともに 1 位通過とし、右壁を 32 手まで登った中武司(多久高 2 年)くん、平井寛太(星生学園 3 年)くんが予選 5 位で決勝進出を果たしました。決勝では昨年の福岡県の国体選手 2 人を抑え、梶くんが優勝し、3 位と僅差で 4 位に逆転で中武くん、6 位に平井君が入りました。女子についても、予選の左壁は決勝に残った 7 人全てが完登し、右壁についても大会 3 連覇を果たしている樋口結花(多久高 3 年)さん、渡島夏希(佐賀北 2 年)さん、掛林紗衣(多久高 2 年)さんが大分の選手とともに完登し、4 人が 1 位通過としました。決勝では、樋口さんがただ一人完登し、4 連覇に輝き、リードを得意としている掛林さんが渡島さんを 2 手上回り 2 位となり、渡島さんが 3 位となりました。

#### 成績(高校の部)決勝進出者のみ

男子	梶 晃悠(多久高 3 年)		
	予選 TOP(左) TOP(右)	1 位/45 人	
	決勝 35+	1 位/7 人	
	中武 司(多久高 2 年)		
	予選 TOP(左) 32+(右)	5 位/45 人	
	決勝 31+	4 位/7 人	
	平井 寛太(星生学園 3 年)		
	予選 TOP(左) 32+(右)	5 位/45 人	
	決勝 30	6 位/7 人	
女子	樋口 結花(多久高 3 年)		
	予選 TOP(左) TOP(右)	1 位/19 人	
	決勝 TOP	1 位/7 人	
	掛林 紗衣(多久高 2 年)		
	予選 TOP(左) TOP(右)	1 位/19 人	
	決勝 36+	2 位/7 人	
	渡島 夏希(佐賀北 1 年)		
	予選 TOP(左) TOP(右)	1 位/19 人	
決勝	34+	3 位/7 人	

#### 令和元年度佐賀県高等学校総合体育大会

・期 日 5 月 3 1 日(金)～6 月 2 日(日)(2 泊 3 日)

・会 場 佐賀市三瀬村・神崎市脊振町・  
吉野ヶ里町松隈

金山・脊振山・蛤岳山系

・参加校 (男子) 鳥栖工 三養基 佐賀工  
多久高 唐津東 (5 校)

(女子) 唐津東 (1 校)

・参加者 男子 46 名 女子 14 名

・コース 5 月 3 1 日 山中キャンプ場 [開会式]

山中キャンプ場ー特区 Sー縦走競技  
(特区間)ー番所跡(ゴール)ー金山(隊  
行動)ー山中キャンプ=脊振山麓習遊  
館 [幕営]

6 月 1 日 脊振山麓習遊館=坂本峠ー永山峠  
ー蛤水道ー蛤岳ー脊振山ー田中登山口  
ー脊振山麓習遊館 [幕営]

2 日 脊振山麓習遊館ー田中登山口ー矢筈峠  
ー唐人舞ー椎原峠登山口=脊振山麓習  
遊館 [閉会式]

5 月 3 1 日(金)10 時 20 分、山中キャンプ場で開会式  
を行い、式後、全員によるペーパーテスト(登山知識につ  
いて)を行いました。昼食後、そこから金山手前の番所跡  
まで特区間(チームによるタイムレース)を実施しました。  
ゴール後はチーム毎に金山をピストンで登頂し、山中キ  
ャンプ場に向けて隊行動で下りました。特区間の成績は  
1 位唐津東、2 位鳥栖工業、3 位佐賀工業、女子は 1 位  
唐津東でした。下山後、神崎市の脊振山麓習遊館に移動  
し、天気図審査、医療審査、設営・撤収審査、炊事審査  
を行い、この日の競技を終えました。

6 月 1 日(土)4 時起床、5 時 3 0 分に集合し、まず  
は坂本峠に移動しました。天気も良好だったため予定通  
り 2 日目の縦走競技を行いました。コースの終盤、唐津  
東高校の女子選手が転倒し脚を負傷、歩行困難だったた  
め田中登山口より神崎市の橋本病院へ救急搬送されまし  
た。検査の結果、幸い骨や靭帯に異常は見られませんでした。  
この日も脊振山麓習遊館にて諸審査を行った後、  
幕営しました。

6 月 2 日(日)この日は 5 時起床、6 時 3 0 分に集合  
しました。天気は良好で予定通り縦走を行いました。こ  
の日は直接田中登山口に向かい、脊振山の西側稜線を椎  
原峠まで歩くコースです。この日は特にトラブルもなく  
気持ちのよい登山となりました。椎原峠登山口からは再  
び脊振山麓習遊館に移動し、審査集計の後、閉会式を行

いました。

大会結果は以下の通りですが、男子は初日の特区から唐津東高校が終始リードし、35年ぶり5回目の優勝を果たしました。女子は唐津東高校が6年連続6回目の優勝を果たしています。どの選手も最後までよく頑張り、実力を出し切りましたが、勝敗を分けたのは事前準備の丁寧さでした。登山の大会は8割方事前準備で決まると言っても過言ではありません。その点、男女で優勝した唐津東高校は丁寧に正確な仕上がりで高得点を収めることができました。今後は、各校細かいところまで心を配り、準備万端整えて大会に参加していただきたいと思います。

#### 成績

男子	1位	唐津東	93.59点	(全国・九州大会出場)
	2位	佐賀工	87.38点	(九州大会出場)
	3位	鳥栖工	80.11点	
女子	1位	唐津東	87.87点	(全国・九州大会出場)

#### 第62回全九州高等学校登山競技大会

・期日 7月5日(金)～8日(月) (3泊4日)

・会場 熊本県 阿蘇山系南外輪山

・参加校 男子A隊 7校  
男子B隊 7校  
女子C隊 7校

・出場校の選手・監督

男子A隊 唐津東：山下 大輔 宮崎 翔琉  
脇山 清瀬 高田 正哉  
監督：宮川 淳

男子B隊 佐賀工：廣田 真慈 池田 明弘  
西川 晴樹 加茂 裕人  
監督：末次 広人

女子C隊 唐津東：橋本 衣那 池田 有希子  
岡本 あさひ 松尾 世那  
監督：中嶋 みのり

・コース

7月5日 旧久木野中学校体育館 [開会式]  
くまもと清陵高等学校 [諸審査、設営・撤収  
審査、炊事審査、幕営]

7月6日 くまもと清陵高等学校―地蔵峠登山口―  
地蔵峠―大矢岳―大矢野岳―駒返峠―くまも  
と清陵高等学校 [諸審査、幕営]

7月7日 くまもと清陵高等学校―鳥の小塚公園横  
―護王峠―俵山―俵山交流館萌の里=(バス)

=ホテルエミナース [宿舎泊]

7月8日 ホテルエミナース [閉会式]

今回の九州大会は熊本県の阿蘇山系(南外輪山)で行われました。例年、梅雨の末期にあたり前々日まで九州地方は大雨でした。

7月5日(金)会場である南阿蘇は天候が回復していましたが、南部九州は当日も雨量が多く、各地で水害が発生したり、交通機関に大きな影響が出たりしていたため、選手が会場に到着できるか心配されましたが、なんとか九州7県のチームが揃い、旧久木野中学校体育館において開会式を実施することが出来ました。その後、くまもと清陵高等学校の各教室を使って自然観察・救急・気象(共通課題を含む)、天気図の各審査が行われました。また、幕営地の状態も良好であったため予定通り同校のグラウンドで設営・撤収審査と炊事審査を行いました。

7月6日(土)晴天に恵まれたため気温・湿度ともに高く、熱中症や脱水の症状を訴える選手が多数出ました。この日はまず幕営地からチーム行動、途中隊行動に変わって地蔵峠に登りましたが、早い段階で隊離脱や行動離脱するチームが出ました。しかし、救護・支援のスタッフの働きにより大事には至らず、予定通り大矢野岳を経由して駒返峠からくまもと清陵高等学校へ帰着。各種審査を行いグラウンドに幕営しました。

7月7日(日)。この日も晴天により朝から気温が高く、熱中症が懸念されました。スタート地点である幕営地から隊行動で観音桜公園駐車場まで歩き、そこからチーム行動に切り替わってまずは護王峠、そして俵山の山頂を目指しました。途中の牧野道は日差しを遮る樹木がほとんど無く、ここでも隊離脱や行動離脱が相次ぎました。残念ながら本県の佐賀工業高校のチームもリタイヤせざるを得ませんでした。それでも残ったチームは頑張っ俵山山頂を越えゴールである俵山交流館萌の里に各パーティが到着。そこで選手・監督に採点結果の公表が行われました。その後、バスで宿舎へと移動しました。

7月8日(月)、ホテルエミナースで閉会式を行ない、それぞれのパーティが帰路につきました。

例年、悪天候で予定のコースを歩けないことが多い九州大会ですが、今年は天候に恵まれ全コースを予定通り縦走することができました。ただ、天気が良すぎて逆に猛暑となり、リタイヤする選手が多かったことは残念でしたが、救急搬送等もなく無事大会を終えることができました。

## 成績

男子	5位	唐津東	90.3点
	12位	佐賀工	60.0点
女子	2位	唐津東	93.8点

## 令和元年度国民体育大会九州ブロック予選

- ・期 日 7月12日(金)～14日(日) (2泊3日)
- ・会 場 佐賀県  
多久高等学校 クライミングウォール  
納所社会体育館ボルダリング施設  
(旧納所小学校体育館)
- ・参加県 少年男子 8県  
少年女子 8県
- ・出場校の選手・監督  
少年男子 梶 晃悠(多久高3年)  
平井 寛太(星生学園3年)  
監督: 武末 良樹(多久高)  
少年女子 樋口 結花(多久高2年)  
渡島 夏希(佐賀北1年)  
監督: 樋口 義朗(多久高)
- ・日 程  
7/12 監督リーダー会議・開始式  
(多久市中央公民館)  
7/13 ボルダリング競技  
7/14 リード競技・表彰式

少年男子は、昨年国体に出場した梶晃悠(多久高3年)くんとこれまで順調に試合出場を重ねた国体初参加の平井寛太(星生学園3年)くんがペアを組み、少年女子は、小学生時代から活躍していて少年女子として最後となる樋口結花(多久高3年)さんと2年連続で国体に出場した渡島夏希(佐賀北2年)さんとペアを組み、地元佐賀県で開催となり、地元の声援を背に、国体出場を目指しました。監督リーダー会議後、開始式が行われ、翌日からの競技に備えました。

13日 いつも練習をしている多久高校のクライミングウォールでリード競技が行われました。男女とも、3位までが国体に出場できるのですが、男子は昨年のような絶対的なエースが存在せず、各県上位者の成績が拮抗していて、2人そろえたところが有利な状況でした。大分の選手1人が完登し、2位以下が混戦となる中、梶くんが3位、平井くんが7位を勝ち取り、団体2位でした。女子は、完登こそ逃しましたが、樋口さんが1位、渡島

さんも苦しみながら4位で、団体1位をとりました。

14日 舞台を納所社会体育に移し、ボルダリング競技が行われました。本県には、大会を開くだけのボルダリング施設がないため、仮設で会場を作りました。男子は、ボルダリングを得意としている福岡県の選手2人を相手に、どのように立ち回るかが焦点で、梶くん、平井君とも積極的にアタックし、福岡の選手と完登した数、ゾーンポイント(完登に至る前のボーナスポイント)の数を同点で、ゾーンポイントにトライした数が福岡県より多くなり(トライ数が少ないほうが上位)、団体2位となりました。女子は、樋口さんが1課題目で珍しく完登に要するトライ数を重ね、個人3位に甘んじたものの、ペアの渡島さんが実力を遺憾なく発揮し、個人1位となり、団体1位をとりました。

結果、男子は総合2位、女子は総合1位となり、国体出場を決めました。少年男子は、6年連続、少年女子は7年連続で10月に茨城で行われる国体に進みました。

少年男子	梶 晃悠(多久高3年)	リード	3位	ボルダリング	2位
	平井 寛太(星生学園3年)	リード	7位	ボルダリング	3位
				総合2位	(国体出場)
少年女子	樋口 結花(多久高3年)	リード	1位	ボルダリング	3位
	渡島 夏希(佐賀北2年)	リード	4位	ボルダリング	1位
				総合1位	(国体出場)

## 令和元年度全国高等学校総合体育大会

### 第63回全国高等学校登山競技大会

- ・期 日 8月2日(金)～8月6日(火) (4泊5日)
- ・会 場 宮崎県 祖母山系
- ・参加校 男子A隊 47校(沖縄県除く・開催県2校)  
女子B隊 47校(沖縄県除く・開催県2校)
- ・出場校の選手・監督  
男子A隊 唐津東: 山下 大輔 宮崎 翔琉  
脇山 清瀬 高田 正哉  
監督: 宮川 淳  
女子B隊 唐津東: 橋本 衣那 池田 有希子  
岡本 あさひ 松尾 世那  
監督: 中嶋 みのり

## ・コース

- 8月2日 高千穂町武道館 [開会式・課題テスト]  
高千穂高等学校 [天気図審査]  
高千穂町総合公園 [設営・撤収審査、炊事審査、幕営]
- 8月3日 高千穂町総合公園=(バス)=四季見原  
すこやかなの森キャンプ場-親父山-四季見橋  
-四季見原すこやかなの森キャンプ場=(バス)  
=高千穂町総合公園 [設営・撤収審査、炊事  
審査、幕営]
- 8月4日 高千穂町総合公園=(バス)=尾平越登山  
口-古祖母山-障子岳-親父山-四季見橋=  
(バス)=高千穂町総合公園 [設営・撤収審査、  
炊事審査、幕営]
- 8月5日 高千穂町総合公園=(バス)=旧五ヶ所小  
学校-筒が岳登山口-筒が岳-千間平-一の  
鳥居登山口-旧五ヶ所小学校=(バス)=宿舎  
[宿舎泊]
- 8月6日 宿舎=(バス)=高千穂町武道館[閉会式]

今年の全国総体登山競技は、宮崎県を会場として開催されることが平成26年度に決定しており、当初鹿児島県との県境に位置する霧島山系を会場として準備が進められていました。ところが2018年に新燃岳や硫黄山の活動が活発になり、大規模な噴火も観測されたことから急遽、県北部の高千穂町を拠点として、日本百名山にも数えられる祖母山系で行うよう計画が変更されました。

8月2日(金)高千穂町武道館にて高千穂高校神楽保存会の神楽のアトラクションから開会式が行われました。参加校の中で1チームが食中毒により棄権しましたが、男子46チーム、女子47チームが参加し競技が開始されました。開会式の後は昼食を挟んで武道館で各種課題テスト、高千穂高校で天気図審査が行われました。その後、天候も良好であったため予定通りで設営・撤収審査と炊事審査を行い、初日の競技を終えました。

8月3日(土)3:00起床で行動を開始したものの、引継式後に離脱を求めたB隊のチーム対応やトイレの混雑により予定より20分ほどの遅延が生じました。役員から選手に対して事前の水分補給の徹底とトイレの指示がでていることもあり、スタートの遅延はその後4・5日ともに生じました。この日は四季見原すこやかなの森キャンプ場から親父山に登り、四季見橋を経由して四季見原すこやかなの森キャンプ場へ戻る周回ルートでしたが、

さほど気温も高くなく、心地よい風が吹く中での登山となったため、行動中に離脱したチームはありませんでした。幕営地へと帰り、設営審査の後選手たちは近くの温泉施設で入浴を行いリフレッシュしました。この日も炊事審査をして高千穂町総合公園にて幕営しました。

8月4日(日)3:00に起床、この日はこれまでの疲れもあり、女子の2チームが朝の時点で行動離脱しました。引継式後は尾平越登山口に向かいました。この日のコースは古祖母山手前のはしごまでが隊行動、その後の障子岳、親父山、四季見橋のゴールまでが班行動でした。途中長めの休憩を要するチームもあり、予定した到着時刻から大幅に遅れましたが、山中で行動離脱するチームもなく、無事登山行動を終えました。この日も予定通り高千穂町総合公園にて幕営しました。

8月5日(月)前日の帰着が遅く、就寝が遅れたためこの日は予定を30分繰り下げて実施されました。起床は3:30。この日は男子1チーム、女子2チームが朝から行動離脱しました。また、台風の接近が予想されることから当初予定していたチーム行動、祖母山へのパーティ行動は中止となり、すべてサブザックによる隊行動で千間平からまっすぐ一の鳥居登山口へ降りるルートが選択されました。サブザック行動、しかもハードだった登山競技を間もなくやり遂げることができるという達成感からか、選手の足取りは軽やかに感じられました。登山を終え、武道館に移動後は班ごとに交流会が行われましたが、大いに盛り上がったようです。その後選手は各宿舎に分かれて宿舎泊しています。

8月6日(火)朝から台風が直撃して暴風雨でしたが、送迎バスをうまく利用してドア to ドアで移動することで予定通り閉会式が行われました。同じ九州勢の長崎北陽台高等学校が惜しくもアベック優勝は逃したものの、男子優勝、女子準優勝を果たしたのが印象的でした。

## 成績

男子 24位 唐津東 93.9点  
女子 17位 唐津東 94.1点

## 令和元年度国民体育大会

- ・期 日 10月4日(木)~10月7日(日)(3泊4日)  
・会 場 茨城県鉾田市 鉾田総合公園  
(リード) (ボルダリング)  
・参加県 少年男子20県  
少年女子16県

・出場校の選手・監督

少年男子 梶 晃悠(多久高3年)  
平井 寛太(星生学園3年)  
監督：武末 良樹(多久高)  
少年女子 樋口 結花(多久高3年)  
渡島 夏希(佐賀北2年)  
監督：樋口 義朗(多久高)

・コース

10/3 監督会議  
(とちぎ海浜自然の家)  
10/4 少年男子 リード予選  
少年女子 リード予選  
10/5 少年男子 ボルダリング予選  
少年女子 ボルダリング予選  
10/6 少年女子 リード決勝  
ボルダリング決勝

今年は、競技名が山岳からスポーツクライミングに変わった記念すべき大会で、少年男子は6年連続、少年女子は7年連続の国体となりました。少年男子は絶対的エースが卒業し、昨年国体に出場した梶晃悠(多久高3年)さんと国体初出場の平井寛太(星生学園3年)さんのペア、少年女子は4年連続出場で少年女子として最後となる樋口結花(多久高3年)さんと今年か3年連続の渡島夏希(佐賀北2年)さんのペアが出場しました。

5日 昨年までは、2人が登るルートは、同傾斜・同ホールドといった左右のルートが同じで、個人成績も少年男子は20組40位、少年女子が18組36位となり、団体順位の確定方法も2人の順位の足し算(少ないほうが上位)であったが、今年から、左右のルートのグレード(難しさ)が同じではないので、左右のルートによるそれぞれの個人順位が与えられ、団体順位の確定方法も2人の順位の掛け算(少ないほうが上位)となるので、左右のルートのどちらか片方が上位に来れば、決勝進出が可能となる大会となった。少年男子は、20組が左右のルートにそれぞれ挑み、左ルートの梶くんは個人8位と昨年よりもかなり順位をあげ、右ルートの平井くんも14位と健闘しましたが、団体15位と振るわず、予選を敗退しました。少年女子は、4年連続の樋口さんが右ルートで6位となり、渡島さんも左ルートで6位となり、予選6位で決勝へ進出しました。

6日 少年男子は昨日の予選を敗退しているだけに、

この日の予選を通らなければ、最終日(6日)の試合は、3年連続で、悔しい観戦にとどまるだけに、気持ちを切り替えて、ボルダリングに挑みました。4課題すべてを完登した選手が5人、3課題が9人出て、非常にレベルが高いなかで、梶くんが1課題、平井くんが2課題の完登に留まり、14位となり予選を敗退し、今年も入賞がかなわなかった。少年女子は、東京の選手が2人のみが4課題を完登し、3課題を完登したのが5名で、樋口さんも1課題、渡島さんも2課題を完登に留まり、予選9位で悔しい順位で決勝進出を逃しました。

7日 少年男子は今年も試合を逃し、少年女子と成年男子の応援に回った。少年女子は左ルートを登った樋口さんが29手まで登ったものの6位となり、右ルートを登った渡島さんも19手の高度で終わり、同高度で7位を分け合い、団体7位と一つ順位を下げました。

成績

少年男子 梶 晃悠(多久高3年)  
平井 寛太(星生学園3年)  
リード予選 15位  
ボルダリング予選 14位  
少年女子 樋口 結花(多久高32年)  
渡島 夏希(佐賀北2年)  
リード予選 6位 決勝 7位  
ボルダリング予選 9位

第10回全国高等学校選抜クライミング選手権大会  
佐賀県予選会

・期 日 10月20日(日)  
・会 場 多久市  
多久高校クライミングウォール  
・参加校 (男子) 鳥栖工 佐賀工  
多久 星生学園(4校)  
(女子) 多久 佐賀北(1校)  
・参加者 男子18名 女子3名 計21名  
・カテゴリー エキスパート リード1ルート  
ミドル リード1ルート  
高校女子 リード1ルート

全国高体連共催になっている第10回全国高校生選抜クライミング選手権大会の予選を兼ねているため、男子の3年生が3名参加し、男女併せて総勢21名で、大会が行われました。女子の樋口結花さんは、9月のJOCジュ

ニアオリンピックカップ南砺 2019 で決勝4位となる成績を収め、全国大会には進むことができ、この大会には参加しませんでした。予定通り全国大会につながるエキスパートクラスと、競技を浸透させるためのミドルクラスを開催しました。エキスパートクラスには、男子は、国体参加の梶晃悠(多久高3年)くに、日ごろから積極的に練習している佐賀工業、星生学年、多久の選手が参加し、女子は国体参加の渡島夏希(佐賀北2年)さん、渡島さんのライバルでもあり友人の掛林紗衣(多久高2年)を含め、3人の参加となりました。ミドルクラスには、佐賀工業・多久・鳥栖工業の男子選手が出場しました。エキスパートクラスでは、国体出場の梶くんが完登で1位となり、同じ学校の中武司(多久高2年)が27手で2位、平井寛太(星生学園3年)くんが22手で3位に入りました。ミドルクラスでは、生徒会長ながら地道に練習を重ねた楠田淳史(多久高3年)くんが完登で1位となり、池田吏瑠斗(佐賀工1年)くんと、東島悠斗(佐賀工1年)くんが、33手の同高度でありましたが、時間により池田くんが2位、東島くんが3位となりました。女子については、先の国体で決勝進出を果たした樋口さん(今大会不参加)と渡島さんは予選免除で全国大会に進めるが、渡島さんは完登まではいかなかったものの、2位の掛林紗衣(多久高2年)さんを3手上回り、1位となり、2位に掛林さん、3位に原彩樺(多久高2年)さんが入りました。結果、男子は、優勝した梶くん、2位の中武くん、3位の平井くんが県推薦で全国大会への出場を決め、男子の団体枠として初めて多久高校が選ばれました。女子は樋口さん・渡島さんがJMSCA推薦で、2位・3位に入った掛林さん・原さんが県推薦で全国大会への出場を決め、2年連続で女子の団体枠(5回目)が復活し、それぞれ12月に行われる全国大会の切符を手に入れました。

## 成績

男子	E1位	梶 晃悠(多久高3年)
	E2位	中武 司(多久高2年)
	E3位	平井 寛太(星生学園3年)
	M1位	楠田 淳史(多久高3年)
	M2位	池田 吏瑠斗(佐賀工1年)
	M3位	東島 悠斗(佐賀工1年)
女子	1位	渡島 夏希(佐賀北2年)
	2位	掛林 紗衣(多久高2年)
	3位	原 彩樺(多久高2年)

## 令和元年度佐賀県高等学校登山新人大会

- ・期 日 11月9日(土)・10日(日)(1泊2日)
- ・会 場 唐津市浜玉町・七山  
十坊山・女岳・浮嶽山系
- ・参加校 (男子) 鳥栖工 三養基 佐賀工  
唐津東 多久(5校)  
(女子) 唐津東 三養基 佐賀工業(3校)
- ・参加者 男子40名 女子18名 計58名
- ・コース 10日 唐津市立玉島小学校体育館[開会式]  
縦走競技:玉島小学校-谷口登山口-城山  
分岐-南西登山道口-大白木越-十坊山-  
南登山口-大白木=北山東部小学校  
医療審査、天気図審査  
設営・炊事審査(北山東部小学校)[幕営]  
11日 縦走競技:北山東部小学校=荒川峠  
-女岳-荒谷峠-浮嶽-白木峠=旧七山  
小学校[閉会式]

10日 大会1日目、開会式が唐津市浜玉町の玉島小学校で行われました。その後ペーパーテスト、昼食を摂り縦走競技を行いました。小学校を出て谷口登山口、城山分岐を経て南西登山道口までは果樹園の中、舗装路を歩きます。そこから登山道に移り、大白木越からの急登を登れば玄界灘の眺望がすばらしい十坊山山頂です。この日は予定通り大白木まで下ったところで幕営地である北山東部小学校へ車移動しました。北山東部小学校では体育館で天気図審査と医療審査を行い、グラウンドで設営審査、炊事審査をしてこの日の競技を終えました。

11日 5時に起床、6時30分に集合して車で荒川峠へ移動しました。隊を整え、予定通りこの日の縦走競技をスタートしました。登山口を出て約1時間で女岳を通過、そこから下って荒谷峠で休憩を兼ねた装備検査を実施しました。新人大会で経験の浅い選手が多いこともあり、個人装備が足りなかったり、装備の防水が不十分だったり、装備の不完全なチームが多く見受けられました。荒谷峠を出発してしばらく歩くとこの日の核心部である浮嶽への急登です。ここでは各チームの日ごろの練習量の差が浮き彫りとなりました。浮嶽を下り、ゴルフ場を横目にしばらく歩くとこの日のゴールである白木峠に着きます。そこからは車で旧七山小学校跡地へ移動し、グラウンドで閉会式を行いました。

## 総合成績

男子	1位	唐津東A	95.65点
	2位	唐津東B	90.95点
	3位	佐賀工A	85.48点
女子	1位	唐津東A	91.18点
	2位	唐津東B	90.38点
	3位	唐津東C	77.13点

## 第10回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

- ・期 日 12月21日(土)・22日(日)
- ・会 場 埼玉県加須市  
加須市民体育館
- ・参加校 (男子) 多久 星生学園  
(女子) 多久 佐賀北
- ・参加者 男子3名 女子4名
- ・カテゴリー 高校生男子  
高校生女子

高体連共催になり、10月のクライミング選手権の成績をもとに、佐賀県から男女7名の選手が参加しました。

男子は、国体に出場している梶晃悠(多久高3年)くん平井寛太(星生学園3年)くんの最後の大会になりました。男女とも毎年レベルが上がり、男子については、A壁で2人、B壁で7人が完登するなかで昨年惜しくも準決勝進出を逃した梶くんは、A壁で16位、B壁で20位、トータル17位で準決勝進出を果たしました。翌日の準決勝では完登者が6名もでて、決勝進出には及ばず、2つ順位をあげ、15位でした。2年連続出場の中武司(多久高2年)くんは、A壁では35位(9人)と昨年より健闘したが、B壁55位(2人)でトータル45位と力及ばず、予選ルートで敗退となりました。また、2年ぶりの出場となった平井寛太(星生学園3年)くんは、A壁60位(16人)、B壁65位(5人)でトータル71位(2人)で予選敗退となった。ただし、学校別の団体戦では、梶くん、中武くんの成績が団体4位となり、多久高男子として2年連続での入賞でした。

女子は、大会3回目となった樋口結花(多久高3年)さんは、インドでのユース大会から連続の試合となるだけに、その影響がでるのか、気になっていた大会でした。C壁で6人、D壁で1人の完登者が出るなか、疲れもあったのか、C壁11位(3人)、D壁26位(6人)、トータル17位と大きく出遅れてしまいました。ここは気持ちを切り替え、翌日の準決勝に備えました。スタートは慎重に登り、このままいくと思われましたが、動きが鈍った

ところで足が滑り、準決勝最下位の26位で悔しい最後の大会となりました。2年連続出場の掛林紗衣(多久高2年)さんがC壁18位(3人)、D壁16位(2人)でトータル18位を勝ち取り、準決勝に進みました。準決勝では最初の核心部を越えられず、21位と順位を落としました。ただ、学校別の団体戦では、樋口さん26位、掛林さん21位となったものの同一学校で同レベルの2人の選手をそろえるのは厳しく、かろうじて2年連続で日本一の栄冠を勝ち取りました。V2を成し遂げたのは、第1回・第2回以来、2校目の快挙となりました。同じく2年連続出場の国体経験のある渡島夏希(佐賀北2年)はC壁22位(3人)、D壁30位(2人)、トータル25位でうれしい準決勝進出となり、準決勝では、掛林さんと同じ核心部を越えられなかったが、22位と順位少し上げることができました。同じく2年連続出場の原彩樺(多久高2年)さんは、C壁52位、D壁44位で力及ばなかったが、昨年よりも順位を上げ、少しずつ力がついていることが分かった大会となりました。V3に向けて、今後に期待したい。

## 成績

男子	梶 晃悠(多久高3年)		
	Aルート 21+	Bルート 28+	17位/109人
	準決勝 21+		15位/26人
	中武 司(多久高2年)		
	Aルート 21+	Bルート 22	45位/109人
	団体(多久高校2名の成績による団体戦)		
	4位/31校		
女子	樋口 結花(多久高3年)		
	Cルート 38+	Dルート 26+	11位/103人
	準決勝 17+		26位/26人
	掛林 紗衣(多久高2年)		
	Cルート 36+	Dルート 29+	18位/103人
	準決勝 24+		21位/26人
	渡島 夏希(佐賀北1年)		
	Cルート 34	Dルート 25+	25位/103人
	準決勝 24+		22位/26人
	原 彩樺(多久高2年)		
	Cルート 25+	Dルート 21+	51位/103人
	団体(多久高校2名の成績による団体戦)		
	1位/23校		

## 令和元年度佐賀県高等学校総合体育大会登山大会自然観察課題

### 1 次の文中の ( ① ) ~ ( ⑳ ) に入る適切な語句を答えなさい。【0.5×24】

令和初の県総体で、佐賀県・福岡県にまたがる脊振山系で開催される。この山域が記載されている国土地理院発行の2万5千分の1地形図の名称は、「不入道」、「( ① )」、「( ② )」、「( ③ )」である。この大会は、福岡県境の基山から長崎県境の栗の木峠まで122kmに及ぶ( ④ )の一部を使用している。当初は、鳥栖市の( ⑤ ) [847.5m]を考えていたが、昨年の大雨被害により車道が使用できないことが判明したため、金山会場を使用することにした。

1日目は、山中キャンプ場で開始式が行われ、ペーパーテストを行い、昼食後、山中キャンプ場をスタート地点とし、( ⑥ )が行われる。スタート地点を出発した後、( ⑦ )で右折し、しばらく広域林道を東進し、小切コースを経て、( ④ )に出会い、( ⑧ )のゴール地点に到着する。その後、標高( ⑨ )mの金山山頂を( ⑩ )行動で往復する。( ⑧ )に全員戻ってきてから、隊行動で金山四差路を南下し、( ⑦ )手前で道明の滝を見下ろしながら、山中キャンプ場へ戻り、そこから車で( ③ )の地図にある( ⑪ )に移動し、天気図・設営などの審査を行う。

2日目は、( ⑫ )時に起床し、5時30分に集合した後、車で( ① )の地図にある( ⑬ )に移動し、隊行動での縦走が始まる。( ④ )を北西方向に進み、( ⑭ )に到着すると、勢いよく流れる水の音が聞こえだす。この水路は、( ⑮ )と呼ばれ、江戸時代に( ⑯ )が築いた人工水路である。そこから15分ほど登ると、標高( ⑰ )mの蛤岳に到着する。( ⑱ )分岐、( ⑲ )分岐を経て( ② )キャンプ場に到着し、( ② ) [標高( ⑳ )m]をピストンし、田中登山口を経て、( ⑪ )に移動し、幕営となる。

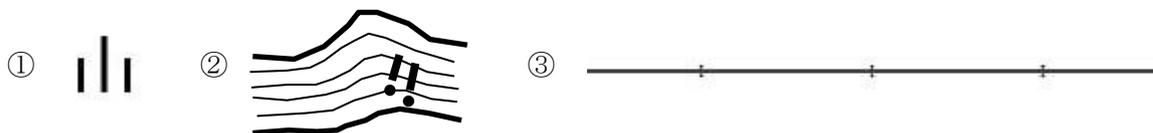
3日目は、5時に起床し、6時30分に集合した後、( ⑪ )から田中登山口へ逆走し、沢沿いに登り、( ㉑ )に到着する。气象台に続く車道をしばらく行くと、再び登山道に入り、遠く故郷を偲びながら踊ったとされる( ㉒ )分岐、( ㉓ )を過ぎ、( ㉓ )西分岐で休憩し、( ㉔ )をピストンし、( ㉓ )登山口から車で、( ⑪ )に戻ってから、閉会式が行われる。

### 2 次の問いに答えなさい。【0.5×8】

(1) 次の地名の読みを書きなさい。

- ① 辰巳谷    ② 服巻    ③ 霊仙寺

(2) 次の地図記号の名称を答えなさい。



(3) 1の⑯が築いた治水事業は、何川へ流れているか。

(4) 1の⑬の北側には、2018年10月に竣工された五ヶ山ダムがある。このダムがある行政区を答えなさい。

3 次の文中の ( ① ) ~ ( ⑩ ) に入る語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。【0.3×10】

- (1) 梅雨期に日本付近に冷氣と湿気を送り込む気団を ( ① ) という。また、この気団と南の ( ② ) との力のつり合いによって、日本付近に梅雨前線が形成され、梅雨現象を引き起こす。
- (2) 低気圧は北半球では、その中心に向かって ( ③ ) 周りに吹き込み、( ④ ) 気流となって ( ⑤ ) が発生するため、天気が悪い。
- (3) 寒冷前線は ( ⑥ ) の勢力が強く、( ⑦ ) の下にもぐり込んで ( ⑦ ) を押し上げながら進み、急激な上昇気流となって雄大積雲や ( ⑧ ) を発生させ雨を降らせる。
- (4) 脊振山麓習遊館のアメダス (標高 570m) における気温が 25℃ である時、脊振山山頂の気温は気温減率のみを根拠に計算すると ( ⑨ ) ℃ となる。また、山頂では風がやや弱く風速 4 m / 秒だったとすると、「リンケの式」では体感温度は ( ⑩ ) ℃ となる。

ア：台風	イ：寒気団	ウ：右	エ：下降	オ：オホーツク海気団
カ：積雲	キ：積乱雲	ク：左	ケ：上昇	コ：シベリア気団
サ：層雲	シ：巻積雲	ス：雲	セ：暖気団	ソ：小笠原気団
タ：1.8	チ：2.2	ツ：1.4	テ：2.5	ト：赤道気団

4 次の文は何を説明しているのか、( ① ) ~ ( ⑩ ) に入る語句を下の語群から選び、答えなさい。【0.1×10】

- ① ( ) 日程が延びてしまったときのために準備しておく食料
- ② ( ) 登山の休憩から次の休憩までの行程
- ③ ( ) 登頂を目的とせずに山麓を歩くこと
- ④ ( ) 川や沢で上流から下流を右側の岸
- ⑤ ( ) 低温や乾燥のために高木が生育できなくなる高度のこと
- ⑥ ( ) されきで覆われている所
- ⑦ ( ) 雲の動きや風の吹き方などの気象現象を観察して天候の推移を予測すること
- ⑧ ( ) 地形図から顕著な山頂や尾根や沢を選び出して山域の全体像を理解しやすく表現した図
- ⑨ ( ) 二人以上がお互いを確保するためザイルで体を結び合うこと
- ⑩ ( ) 沢の源頭にある小さな峰や尾根上にある独立峰というほどではない隆起部

語 群

頭	左岸	予備食	概念図	ピストン	トラバース
縦走	尾根	行動食	断面図	森林限界	観天望気
右岸	ザレ場	ガレ場	草付き	集中登山	アンザイレン
非常食	へつり	ゴーロ	ピッチ	自己確保	トレッキング

令和元年度佐賀県高等学校総合体育大会登山大会自然観察課題 **解答**

1 【0.5×24】

① 中原	② 脊振山	③ 広滝	④ 九州自然歩道
⑤ 九千部山	⑥ 特区	⑦ 洞明橋	⑧ 番所跡
⑨ 9 6 7 . 1 ( 9 6 7 )	⑩ パーティ	⑪ 脊振山麓習遊館	⑫ 4
⑬ 坂本峠	⑭ 永山峠	⑮ 蛤水道	⑯ 成富兵庫茂安
⑰ 8 6 2 . 8	⑱ 古賀ノ尾	⑲ 分屯基地	⑳ 1 0 5 4 . 6 ( 1 0 5 5 )
㉑ 矢筈峠	㉒ 唐人舞	㉓ 椎原峠	㉔ 鬼ヶ鼻岩

2 【0.5×8】

(1) ① ぼろめき	② はらまき	③ りょうせんじ	(3) 荒地
(2) ① 雨裂	② 送電線	③ 田手川	(4) 那珂川市

3 【0.3×10】

① オ	② ソ	③ ク	④ ケ
⑤ ス	⑥ セ	⑦ キ	⑧ イ
⑨ チ	⑩ ツ		

4 【0.1×10】

① 予備食	② ピッチ	③ トレッキング	④ 右岸
⑤ 森林限界	⑥ ザレ場	⑦ 観天望気	⑧ 概念図
⑨ アンザイレン	⑩ 頭		

パーティ名	学校名	氏名	得点

令和元年度佐賀県高等学校総合体育大会登山大会自然観察課題 解答用紙

1 【0.5×24】

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱	⑲	⑳
㉑	㉒	㉓	㉔

2 【0.5×8】

(1)	①	②	③	(3)
(2)	①	②	③	(4)

3 【0.3×10】

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

4 【0.1×10】

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

パーティ名	学校名	氏名	得点

令和元年佐賀県高等学校総合体育大会登山大会 救急課題(解答例)

パーティ名	学校名	氏名	得点
			/5

1. 傷病者への初期対応「3SABCDE」がある。「B」については漢字2文字で、「E」については記号で答えなさい。【0.3+0.2】

E ア：脈をとって、速さ・強さ・リズムを確認する

イ：寒さ、雨、風、日射などから負傷者を保護する

ウ：頭から足先まで触ってみて、死に至るような怪我がないか確認する

B	E
呼吸	イ

2. 次の文章を読んで、①～④については文中の( )に適する語句・数値を下から選び、記号で答え、⑤については漢字2文字で答えなさい。【0.2×4+0.3】

九州の夏山においても、汗や雨によって身体が濡れると熱が奪われて低体温症に陥る可能性がある。低体温症とは脳や内臓(深部体温)が( ① )℃以下になった状態で、症状としては( ② )・意識・( ③ )を観察する。( ② )は通常最初に現れる症状である。予防と処置については食べる(むせない人のみ可)ことであり、( ④ )が最も効率的なエネルギーとなる。衣類を着るなどの( ⑤ )が必要である。

ア：32	イ：35
ウ：ふるえ	エ：脂肪
オ：呼吸と脈	カ：炭水化物

①	②	③	④	⑤
イ	ウ	オ	カ	保温

3. 次の文中の( )に適する語句を下から選べ。【0.2×7】

- ・ 傷に行う処置の優先順位は、( ① )である。
- ・ 登山中に骨と関節に起こる外傷の内、最も起こるのは、足首の( ② )である。
- ・ 高山病の診断として、自分自身が状態を点数化する( ③ )が有用である。
- ・ 熱傷の処置としては、( ④ )を用いて冷やすことである。
- ・ 登山行動における熱中症の予防には、登山前に( ⑤ )ml程度のスポーツドリンクを飲み、脱水を改善しておく。行動時間が3時間を超える場合には、( ⑥ )など電解質の補給を行う。
- ・ 過換気症候群は体内の( ⑦ )が正常より下がりすぎた結果、種々の症状をさす

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
エ	ア	ツ	シ	ケ	コ	チ

ア, 捻挫	イ, 挙上	ウ, 骨折	エ, 止血	オ, 脱臼
カ, 安静	キ, 冷却	ク, 60	ケ, 500	コ, 100
サ, 氷	シ, 飲み水	ス, 炭水化物	セ, 温かいお湯	ソ, 塩分
タ, 酸素	チ, 二酸化炭素	ツ, レイクルイーゼスコア		

5. 次にあげる医薬品を出しなさい。【0.5×4】

整腸剤(胃腸薬) ( ) 虫刺され薬 ( ) 湿布薬 ( ) 包帯 ( )

令和元年佐賀県高等学校総合体育大会登山大会 救急課題

パーティ名	学校名	氏名	得点
			/5

3. 傷病者への初期対応「3SABCDE」がある。「B」については漢字2文字で、「E」については記号で答えなさい。【0.3+0.2】

E ア：脈をとって、速さ・強さ・リズムを確認する

イ：寒さ、雨、風、日射などから負傷者を保護する

ウ：頭から足先まで触ってみて、死に至るような怪我がないか確認する

B	E

4. 次の文章を読んで、①～④については文中の（ ）に適する語句・数値を下から選び、記号で答え、⑤については漢字2文字で答えなさい。【0.2×4+0.3】

九州の夏山においても、汗や雨によって身体が濡れると熱が奪われて低体温症に陥る可能性がある。低体温症とは脳や内臓(深部体温)が( ① )℃以下になった状態で、症状としては( ② )・意識・( ③ )を観察する。( ② )は通常最初に現れる症状である。予防と処置については食べる(むせない人のみ可)ことであり、( ④ )が最も効率的なエネルギーとなる。衣類を着るなどの( ⑤ )が必要である。

ア：32	イ：35
ウ：ふるえ	エ：脂肪
オ：呼吸と脈	カ：炭水化物

①	②	③	④	⑤

3. 次の文中の（ ）に適する語句を下から選べ。【0.2×7】

- ・ 傷に行う処置の優先順位は、( ① )である。
- ・ 登山中に骨と関節に起こる外傷の内、最も起こるのは、足首の( ② )である。
- ・ 高山病の診断として、自分自身が状態を点数化する( ③ )が有用である。
- ・ 熱傷の処置としては、( ④ )を用いて冷やすことである。
- ・ 登山行動における熱中症の予防には、登山前に( ⑤ )ml程度のスポーツドリンクを飲み、脱水を改善しておく。行動時間が3時間を超える場合には、( ⑥ )など電解質の補給を行う。
- ・ 過換気症候群は体内の( ⑦ )が正常より下がりすぎた結果、種々の症状をさす

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

ア, 捻挫	イ, 挙上	ウ, 骨折	エ, 止血	オ, 脱臼
カ, 安静	キ, 冷却	ク, 60	ケ, 500	コ, 100
サ, 氷	シ, 飲み水	ス, 炭水化物	セ, 温かいお湯	ソ, 塩分
タ, 酸素	チ, 二酸化炭素	ツ, レイクルイーゼスコア		

5. 次にあげる医薬品を出しなさい。【0.5×4】

整腸剤(胃腸薬) ( ) 虫刺され薬 ( ) 湿布薬 ( ) 包帯 ( )

# 令和元年度 佐賀県高等学校総合体育大会登山大会審査集計表

大会山域 金山・蛤岳・脊振山山系  
日程 令和元年5月31日～6月2日

	縦 走					天気図	装備	計画書	記録	学科	設営 撤収	救急法	炊事	マ-	総合計	順位	備 考
	特 区		2日目	3日目	読図												
	時間点	完歩点															
	15	2	12	6	12	8	6	5	5	8	6	5	5	5	100		
A 1	13	2	12	8	8	5.3	4.5	3.75	4	3.56	4.5	4.50	2	5	80.110	3	鷹工A
A 2	15	2	12	8	8.8	6.4	6	5	5	5.59	5.7	4.10	5	5	93.590	1	唐東A
A 3	10.4	2	12	8	9.6	7.2	6	4.5	3	4.68	5.4	4.60	5	5	87.380	2	佐工A
A 4	6.9	2	11.5	7.5	5.6	6.3	5.5	3	2	5.28	5.1	4.80	5	5	75.480		
B 1	0	0	10.5	7	1.6	3.5	2	2.25	0	2.70	4.2	3.20	0	4	40.950		
B 2	0	2	0	0	0	4.2	1.5	0	0	5.56	0	0.00	0	0	13.260		
B 3	1.5	0	12	8	4.8	2.7	4.25	5	3.5	4.37	3.6	1.80	4	4.5	60.018		
B 4	0	2	11.5	8	0.8	4.4	3.25	4.5	4	2.33	5.1	3.10	3	4	55.983		
B 5	7.6	2	12	8	5.6	6	5.5	4.5	4.5	3.57	0	3.70	5	4.5	72.470		
B 6	0	2	12	8	4	4	4.75	4.5	2	3.36	1.2	4.30	4	4.5	58.610		
B 7																	
C 1	15	2	11.5	8	5.6	4.6	6	5	4.5	5.47	5.4	4.80	5	5	87.870	1	唐東A
C 2	0	2	9	6.5	7.2	6.7	3	5	1.5	3.91	3	3.90	4	4.5	60.207		
C 3	0	2	6	7.5	1.6	3.5	2.25	5	2	3.35	1.8	1.50	5	4.5	46.000		
C 4	0	0	10.5	7.5	2.4	0	1	0	1	0.00	0	0.00	0	4.5	26.900		
C 5																	

男子 優勝 唐津東高等学校A (35年ぶり 5回目)  
女子 優勝 唐津東高等学校A (6年連続 6回目)

1. 次の文中の ( ① ) ~ ( ⑩ ) に入る適切な語句を答えよ。

今大会は、唐津市 ( ① ) と福岡県糸島市の県境にまたがる浮嶽山系を縦走会場として開催される。2万5千分の1地形図の名称は、「浜崎」と「雷山」である。

1日目は、唐津市 ( ② ) 小学校で開始式が行われ、その後ペーパーテスト、昼食の後、縦走が行われる。谷口登山口から ( ③ ) 分岐を経て南西登山道を上り、この日の最高峰である ( ④ ) に至る。( ④ ) からは南登山道を下り ( ⑤ ) 地区がゴールとなる。縦走終了後は、車で ( ⑥ ) 小学校に移動する。ここでは、( ⑦ )、医療テスト及び設営・炊事審査などが行われる。

2日目は、5時に起床し、6時30分に集合する。幕営地から縦走スタート地点である荒川峠まで車で移動する。スタートしてから、女岳、浮嶽『標高 ( ⑧ ) m』に登頂し、白木峠がゴールとなる。この山系に流れる河川は、七山地域を東西に流れる ( ② ) 川、( ② ) 川に流れ込む ( ⑨ ) 川などがある。1日目、2日目ともに縦走中にその場の地点確認のための ( ⑩ ) 審査が行われる。

2. 以下の地図記号 (1)、(2) は何か。それぞれ答えよ。なお、どちらも今回の新人戦コース地図上にあるものである。

(1)



(2)



3. 以下の文の下線部①~④について、適切な登山用語を答えよ。

「山頂に向かって①溪流を下流から上流に見て左側の岸の登山道を登っていった。途中、この溪流を②対岸に横切り、さらに登っていくとやがて③峰から峰へと続く主脈の線上にでた。この線上を山頂に向かって登っていくと、④峰と峰との間の低くなったところが多くあった。」

4. 以下の文の ( 1 ) と ( 2 ) にそれぞれ最も適当な地名、山名を入れよ。

「今年度の九州大会は熊本県の阿蘇山系で、またインターハイは宮崎県の祖母山系で行われた。インターハイの計画当初は、霧島山系で実施する予定だったが、新燃岳噴火により変更となった。また来年度の九州大会は大分県の久住山系で行われる。これら4つの山系はすべて日本百名山に数えられるが、九州にはあと2つの日本百名山があり、それはどちらも鹿児島県にある。ひとつは ( 1 ) 島にある宮之浦岳 (1,935m) で九州最高峰を誇る。もうひとつは指宿にある ( 2 ) で、こちらは1,000mに満たない低い山で、日本百名山の中では99番目の標高である。」

5. 以下の文の ( ) に最も適当な数値を、下記のア~カより選び、記号で答えよ。

「地表から高度11kmまで、気温は高度が増すとともに低下する。その割合を気温減率という。普通は、高度が ( ) 上昇すると、6.5°C低下する。」

ア. 100m    イ. 500m    ウ. 1,000m    エ. 2,500m    オ. 5,000m    カ. 10,000m

6. 以下の文の下線部①~⑥について、誤っている番号をひとつ選び、正しい表現に訂正せよ。

「低気圧は、北半球では風が①左回りに②吹き込み、③冷たい空気が④上っていくことで、⑤雲が発生するので、天気が⑥悪くなる。」

## 模範解答

1	①	七山	2	(1)	田	
	②	玉島		(2)	荒地	
	③	城山	3	①	右岸	
	④	十坊山		②	徒渉	
	⑤	大白木		③	稜線（尾根）	
	⑥	北山東部		④	コル <small>（鞍部、タル、タワ、タルミ、乗っ越し）</small>	
	⑦	天気図審査	4	(1)	屋久	
	⑧	805.1		(2)	開聞岳	
	⑨	野井原（狩）	5	ウ		
	⑩	読図	6 完答	番号 ③	訂正	暖かい

※各1点

パーティ名	学校名	氏名	得点

1	①		2	(1)	
	②			(2)	
	③		3	①	
	④			②	
	⑤			③	
	⑥			④	
	⑦		4	(1)	
	⑧			(2)	
	⑨		5		
	⑩		6	番号	訂正

パーティ名	学校名	氏名	得点
-------	-----	----	----

パーティー名	学校名	氏名	得点
			/5

1. 傷病者への初期対応「3 SABCDE」について、「3 SABCDE」の概要を示した次の文中の ( ア ) ~ ( キ ) に入る最も適当な語句をそれぞれ答えよ。【0.3×7】

3 S…安全&状況確認、頭・首・背中をまっすぐ A… ( ア ) 確認 B… ( イ ) 確認 C… ( ウ ) をとる、手のひらの ( エ ) を確認 頭～足指先：( オ ) をさがす→止める D…頭～足指先：全身さわって ( カ ) を探す E…寒さ・雨風雪・( キ ) を避ける
--

ア 気道	イ 呼吸	ウ 脈	エ 冷や汗	オ 出血
カ 異常	キ 日射			

2. 熱中症の際の処置の方法である3つのクーリングについて、3つのクーリングの概要を示した次の文中の ( ク ) に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

① ( ク ) …熱を逃がすためには蒸発の機序が効果的である。 ② アイスパック…雪溪の雪や沢水などを利用する。 ③ 水に浸す…冷水に短時間浸すことは効果がある。
---

ク 濡らして扇ぐ

3. 行動中の水分補給の目安について、次の式は行動中の脱水量を算出する式である。

( ケ ) に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

「行動中」の脱水 (ml) = ( ケ ) × 行動時間 (h) × 5

ケ 体重

4. 低体温症を防止するための体温を下げない4箇条を示した次の文中の ( コ ) に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

体温を下げない4箇条…食べる、( コ )、保温、加温

コ 隔離

5. 次にあげる医薬品を出しなさい。【0.5×4】

風邪薬 ( ) 虫さされ薬 ( ) 体温計 ( ) 三角巾 ( )

令和元年度佐賀県高体連登山部新人大会 救急課題

パーティー名	学校名	氏名	得点
			/5

1. 傷病者への初期対応「3 SABCDE」について、「3 SABCDE」の概要を示した次の文中の（ア）～（キ）に入る最も適当な語句をそれぞれ答えよ。【0.3×7】

3 S…安全&状況確認、頭・首・背中をまっすぐ A…（ア）確認 B…（イ）確認 C…（ウ）をとる、手のひらの（エ）を確認 頭～足指先：（オ）をさがす→止める D…頭～足指先：全身さわって（カ）を探す E…寒さ・雨風雪・（キ）を避ける
--

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ			

2. 熱中症の際の処置の方法である3つのクーリングについて、3つのクーリングの概要を示した次の文中の（ク）に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

- |  |
|--|
| ① （ク）…熱を逃がすためには蒸発の機序が効果的である。<br>② アイスパック…雪溪の雪や沢水などを利用する。<br>③ 水に浸す…冷水に短時間浸すことは効果がある。 |
|--|

ク
---

3. 行動中の水分補給の目安について、次の式は行動中の脱水量を算出する式である。（ケ）に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

「行動中」の脱水 (ml) = (ケ) × 行動時間 (h) × 5
------------------------------------

ケ
---

4. 低体温症を防止するための体温を下げない4箇条を示した次の文中の（コ）に入る最も適当な語句を答えよ。【0.3×1】

体温を下げない4箇条…食べる、（コ）、保温、加温
--------------------------

コ
---

5. 次にあげる医薬品を出しなさい。【0.5×4】

風邪薬（ ） 虫さされ薬（ ） 体温計（ ） 三角巾（ ）

